

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年十一月度 入選句（投稿総数三千四百三十三句・一般投句数五百二十八句）

特選

母の掌に生き物のごとぶだう置く

岐阜市

島 めぐみ

ぶだうは旧仮名づかい。ぶどう（葡萄）である。世界で一番多く生産されている果物（八割はワイン用）で形・色・大きさの違ういろいろな種類がある。

高齢の母であろうか、手の平にそつと大粒のぶどうをのせてあげた。その時のぶどうの動きや母の表情が見える。生き物のごとと表現されて母に対する愛情がよく伝わってくる。

賜日和小さき漁港に小さき船

東京都世田谷区 関戸 信治

賜日和小は鵜の鳴き声が聞こえる天気の良い日のこと。

空の青、海の青が広がる小さな漁港。小さな漁船が何槽か杭に繋がれている。動きはない。

時々、鵜のきいーっという声がする。時間がとまったようなゆつたりとした心持になる。小さきのリフレインが効果を上げている。

秋うらら口開けてゐる投句箱

北海道札幌市

藤林 正則

秋うらら。澄み渡った秋空のもと春のような日差にうらかな気分になること。

作者は吟行をしてたぐさんの俳句ができたのであろうか、それともなかなかできずにいるのであろうか。どちらにしろ投句箱が口を開けて投句を待っているのだと、ユーモラスに表現した。ことと、季語秋うららで心に余裕があることが分かる。

秀逸

秋澄むや五百羅漢に千の耳

愛知県名古屋市

舘野 茂子

大空に身を乗り出して松手入

岐阜市

岩上 利一

色褪せし閉店の文字秋夕焼

安八郡安八町

渡辺 千代美

天高し杖ひく身にも旅心

大垣市

村田 通夫

とある日の喝采冬の石舞台

大垣市

坪井 克枝

朝寒や香炉の獅子も眠りをり

不破郡垂井町

川瀬 慶泉

綿虫や五街道へとつながみち

大垣市

佐藤 すみ子

空 鉄鳴らしてけふの松手入

三重県四日市市

後藤 充孝

高稲架を解きて定むる峽一景

愛知県豊田市

城山 憲三

良夜なり寝釈迦のやうに母のゐて

長野県下伊那郡

長沼 まさし

入選

秋空に一筆啓上ジェット雲
鉛筆をにぎる残暑のたなごゝろ
一山は大きな巣箱色鳥来
どんぐりの転げる先の獣道
露草のまだ濡れてゐる朝日かな
秋の水ひかり抱きて流れをり
母の手の記憶は確か糸編む
岩壁に刺さる鉄鎖やあきつ舞ふ
俯せに舟並らぶ岸秋の風
臘梅の日射しに溶けて匂ひけり

大垣市	二村	光生
各務原市	星河	ひかる
養老郡養老町	田中	紫香
京都府京都市	石田	一美
大垣市	日比野	友子
大垣市	澤井	国造
岐阜市	島	めぐみ
岐阜市	伊藤	瑞実
安八郡安八町	渡辺	千代美
愛知県名古屋市	舘野	茂子

入選

もんぺより草の実こぼれ検診車
千歳飴引き摺り走る鈴の音
赤き実のひと粒づつに秋夕焼
伊吹嶺のひとときは青き鵲日和
新米の銘柄唱え朝支度
鯛雲色変えながら夕暮れる
山茶花や児童少なき通学路
下駄の音止んで郡上の秋の風
のど自慢出番待つ子の文化の日
胸底に二心閉ぢ込め濁酒

大垣市	村田	通夫
大垣市	田中	雅子
大垣市	宮脇	和子
安八郡神戸町	澤崎	和子
大垣市	高木	歌佐
大垣市	大杉	すみゑ
兵庫県神戸市	岸下	庄二
大垣市	高橋	柳邦
大垣市	小林	けい子
岐阜市	堀江	美州

選者吟

標本の如骨残る秋刀魚かな

武直